

京 労 発 基 1201 第 1 号  
令 和 3 年 12 月 1 日

関係機関 代表者 殿

京 都 労 働 局 長

年 末 年 始 の 労 働 災 害 防 止 に 向 け た 取 組 の 要 請 に つ い て

京都府内の労働災害の発生件数は、関係各位のご尽力により長期的には着実に減少してきましたが、令和3年の労働災害による休業4日以上死傷者数は、令和3年10月末速報値において1924人と前年同期比14.9%増加（新型コロナウイルス感染症を除くと1739人、前年同期比6.1%増加）、死亡者数は13人と前年同期より6人もの増加となっています。

本年は、第13次労働災害防止対策推進計画（以下「13次防」という。）の4年目となっていますが、この状態で推移すれば、休業4日以上死傷者数を平成29年（2017年）と比較して5パーセント以上減少させるという13次防の目標の達成は極めて難しいと判断されます。

本年もあと1か月を残すのみとなりましたが、年末年始は、通常作業に加え非定常作業も増えることから、労働災害防止活動を徹底していくため、別添のとおり、「年末年始の労働災害防止に向けた取組要請」をいたします。

貴団体におかれましては、労働災害防止に向けた取組を強化いただくとともに、傘下の会員事業場への周知につきまして、特段の御配慮をお願いします。

## 年末年始の労働災害防止に向けた取組要請

京都府内の令和3年の労働災害による休業4日以上死傷者数（以下「死傷者数」という。）は、令和3年10月末速報値は、1924人（うち新型コロナウイルス感染症による死傷者数は185人）、前年同期は、1675人（うち新型コロナウイルス感染症による死傷者数は36人）と前年同期比で14.9%増加、新型コロナウイルス感染症による死傷者数を除いても6.1%増加し、また、死亡者数は13人と前年同期より6人増加しています。

京都労働局では、死傷者数の増加傾向であることから、年末年始の労働災害防止のため、令和3年12月7日に労働災害が増加している陸上貨物運送事業のターミナルにおいて労働局長パトロールを実施することとし、災害防止の啓発を図ることとしています。

本年、労働災害が増加している背景には、生活様式が変わったことによる宅配物の増加により、荷役作業における労働災害が増加したこと、また働く高年齢者層が増加、身体機能の低下等で転倒災害をはじめとする行動災害の増加に歯止めがかからないことなどが考えられます。また、小売業をはじめとする第三次産業においては、事業者、労働者ともに安全衛生に対する意識が希薄で安全管理体制が必ずしも整っていないことや効果的な安全衛生教育が実施されていないこと等も一因であると考えられます。

事業者の皆様におかれましては、上記の労働災害増加の背景と併せ、年末・年始は、大掃除や機械設備の保守点検・始動等の非定常作業が多くなる時期でもあることから、「年末年始無災害」の取組みとして、企業の安全衛生活動を今一度総点検して、関係者が一体となって下記の対策を実施することにより、労働災害防止に努めていただきますよう、要請いたします。

- 1 経営トップの参加の下に職場の安全パトロールを実施するなど、職場内における安全衛生活動の総点検を実施すること
- 2 安全管理者等の選任義務がない事業場においても、安全の担当者（安全推進者）を配置するなど、事業場の安全管理体制を充実すること
- 3 増加している転倒災害を防止するため、転倒災害防止のためのチェックリストを活用するなどして危険要因の洗い出しを行い、転倒災害防止対策の実施を図ること
- 4 雇入れ時教育を徹底するなど、効果的な安全衛生教育を実施すること
- 5 高年齢者の労働災害が多発していることから、特に高年齢者の労働環境及び安全衛生対策に配慮すること

令和3年12月1日

京都労働局

局長 金刺 義行

# 令和3年 死亡災害一覧

京都労働局  
令和3年10月末

災害発生日	業種	事故の型	起因物	年齢	職種	災害の概要
2月	紙加工品製造業	墜落、転落	屋根、はり、もや、けた、合掌	50代	作業員・技能者	屋根の樋に溜まった枯葉を取り、鉄板の屋根を通らず樹脂製の灯りとりの上に乗ったため、灯りとりが割れて5.3メートル下へ落下した。
2月	警備業	激突され	トラック	60代	警備員	堤防強化工事現場において、盛土を搬入するダンプトラックがバックで運搬路を進入する際、当該運搬路上にいた被災者がダンプトラックに激突された。
2月	新聞販売業	交通事故(道路)	トラック	70代	配達員	新聞配達業務を終え、原動機付自転車で国道に出ようとしたところ、当該国道を走行していた普通貨物自動車と衝突した。
3月	木材伐出業	激突され	立木等	70代	伐木・造林作業員	チェーンソーにて樹高17.7m、胸高直径19cmの立木を伐採したところ、谷側に倒れた伐倒木が倒れた拍子に跳ね返り、被災者に激突した。
5月	自動車整備業	はさまれ、巻き込まれ	トラック	50代	自動車整備工	左前輪及び左後輪が脱輪したパッカー車の救助作業中、パッカー車と地面との間に胸部がはさまれた。
5月	教育研究業	墜落、転落	はしご等	40代	作業員・技能者	キャンパス中庭において、三脚脚立を使用して剪定作業を行っていたところ、脚立より落下した。
5月	ビルメンテナンス業	墜落、転落	建築物、構築物	60代	警備員	ビル警備を行っていた労働者が、警備時間中に屋上から墜落した。
5月	一般貨物自動車運送業	交通事故(道路)	トラック	20代	貨物自動車運転者	国道の下り車線を北上していた被災者が運転する4tトラックが対向車線に侵入し、上り車線を南下していた他社の労働者が運転する20tトレーラーと正面衝突した。
6月	警備業	交通事故(道路)	高所作業車	60代	警備員	別の者が運転する高所作業車がバックしたところ、被災者に激突し、下敷きとなった。
6月	砂利採取業	はさまれ、巻き込まれ	混合機、粉砕機	40代	作業員・技能者	ダート製造用の仮設プラントにおいて、同プラント内の攪拌機内の清掃作業中に、同機内の回転部に巻き込まれた。
7月	その他の卸売業	激突され	トラック	40代	運転者	停車している3tダンプと4tダンプの間に立っていた際、同僚が4tダンプを後退させたため、3tダンプと4tダンプの間にはさまれた。
8月	警備業	交通事故(道路)	トラック	60代	警備員	土砂崩れに係る復旧工事において、道路の通行止め場所の警備業務に従事していたところ、本線を走行していたトラックにはねられた。
10月	機械器具設置工事業	崩壊、倒壊	その他の材料	50代	設備機械工	排水ポンプ吸込み弁(約3.5t)の基礎に水平に固縛してあった転倒防止用ベルトを外す作業中、吸込み弁が倒れ、下敷きとなった。

# 京都労働局 年末年始を無災害で！

2021年12月1日～2022年1月15日

京都府内の令和3年の休業4日以上の死傷者数は、10月末速報値において、1924人で前年同期と比較して14.9%増加、新型コロナウイルス感染症を除いても1739人と前年同期と比較して6.1%増加しており、死亡者数は13人と前年同期より6人増加しています。特に、警備業の死亡災害は3人と、前年の0人から大幅増加となっています。

年末年始は、何かとあわただしく、通常作業に加え非常作業等も増えることから、労働災害防止対策を一層推進しましょう。

図1 署別労働災害発生件数（10月末速報値比較） 新型コロナウイルス感染症を含む

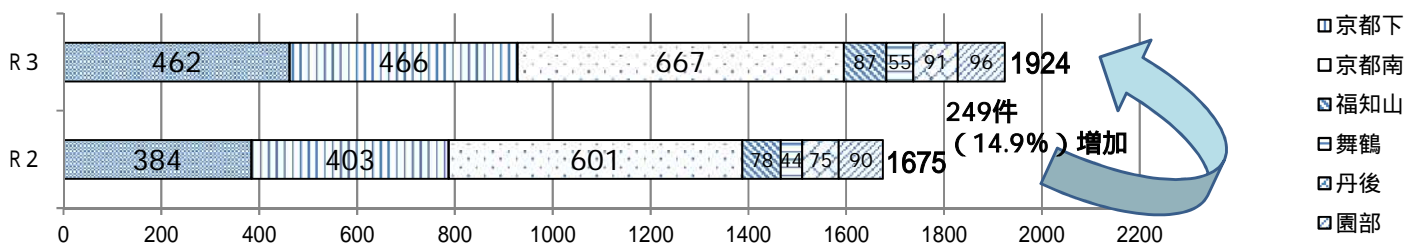


図2 休業4日以上の死傷災害（京都）

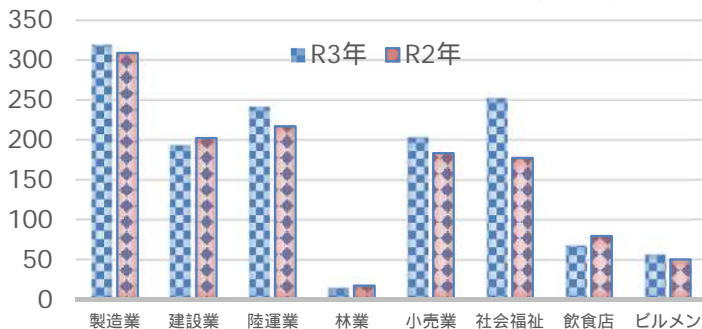
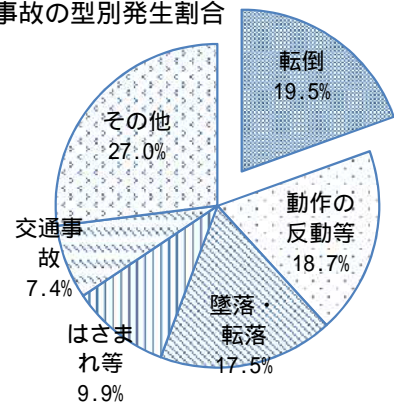


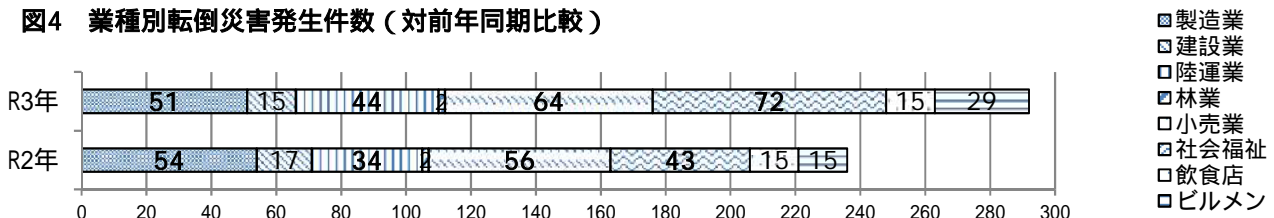
図3 事故の型別発生割合



事故の原因別では、「転倒」が428件と、前年同期比で101件増加、災害原因の1位となっており、全体の22.2%を占めています。

また、転倒災害は、社会福祉施設、小売業、陸運業等、第3次産業で多発しています。

図4 業種別転倒災害発生件数（対前年同期比較）



# 警備業の死亡災害が大幅に増加

図5 業種別死亡災害発生状況（令和3年10月末現在（前年同期と比較））

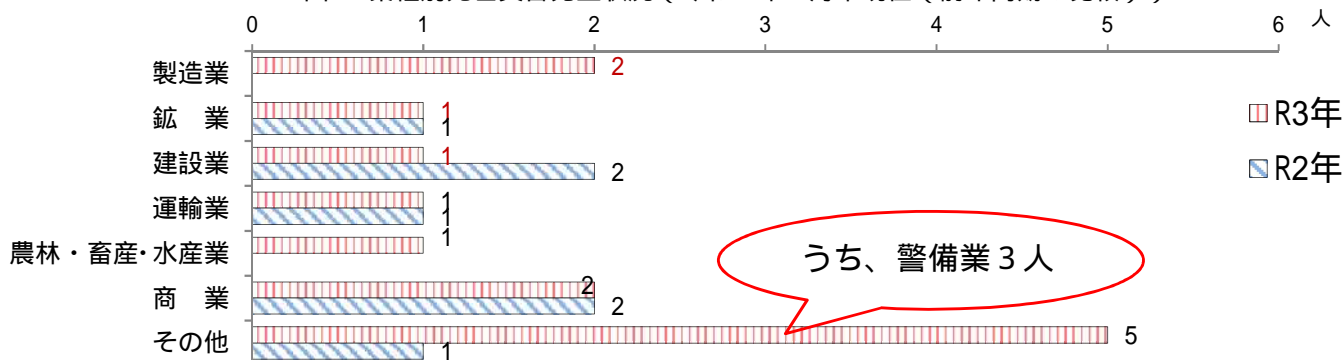
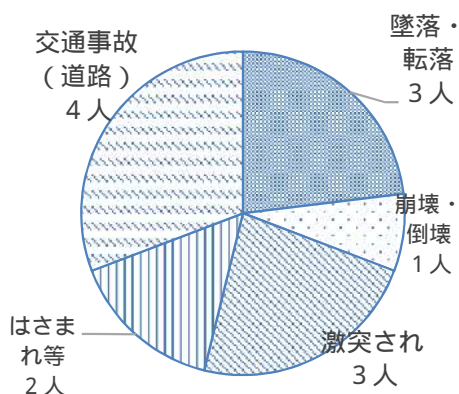


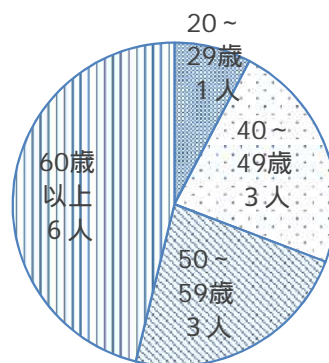
図6 事故の型別 死亡災害発生状況



### 墜落・転落災害が最多

令和3年に発生した死亡災害のうち「交通事故」が最も多い事故の型になっています（4件）。また、「墜落・転落」による災害も3件発生しています。

図7 年齢別 死亡災害発生状況



### 高齢者の死亡災害が顕著

令和3年に発生した死亡災害のうち12人は40歳以上の労働者が被災しています。特に、50歳以上の被災労働者は、9人にのぼり、全体の約7割を占めています。

資料：京都労働局死亡災害報告（令和3年10月末速報値）

## 年末年始の労働災害防止に向けた取組

1. 経営トップの参加の下に職場の安全パトロールを実施するなど、職場内における安全衛生活動の総点検を実施すること
2. 安全管理者等の選任義務がない事業場においても、安全の担当者（安全推進者）を配置するなど、事業場の安全管理体制を充実すること
3. 増加している転倒災害を防止するため、転倒災害防止のためのチェックリストを活用するなどして危険要因の洗い出しを行い、転倒災害防止対策の実施を図ること
4. 雇入れ時教育を徹底するなど、効果的な安全衛生教育を実施すること
5. 高齢者の死亡災害が多発していることから、特に高齢者の労働環境及び安全衛生対策に配慮すること